

東海学院大学・東海学院大学短期大学部公開講座 2023

「にこやかに生きる ～大学は知の宝庫～」

第6回 12/1 (金) 13:30～15:00 報告

大人になっても楽しめる絵本の世界

講師 アンドリュー・デュアー (本学教授) 於：図書館大セミナー室

◆◆◆◆◆◆*◆◆◆*◆◆◆*◆◆◆*◆◆◆*◆◆◆*◆◆◆*

令和5年度第6回公開講座が12月1日(金)に開催されました。

今回の講座では、講師は絵本の魅力について話しましたが、その中でも大人の絵本の楽しみ方にスポットを当てました。

講座は絵本とはそもそも何であるか、という説明から始まりました。それはもちろん絵のある本ですが、さらに言えば主たる内容が絵で描かれている本であり、物語などのテーマでつながっています。文章があつたりなかつたりしますが、「読む」ための本になっています。コマワリの絵で構成されている漫画とも、絵や写真が収録されている画集とも違うそうです。

絵本は日本では長い歴史を持っています。平安時代と鎌倉時代の絵巻は絵本といってもいいし、江戸時代の草双紙などもそうです。江戸の庶民は本をたくさん読んでいましたが、絵本は中でも字が読めない人にも楽しめる本でした。ヨーロッパでは、絵本はもっと遅く現れました。1658年にチェコの教育者コメニウスが『世界図絵』という子ども向けの教科書の出版からスタートしたそうです。でもいわゆる「絵本」、純粋な娯楽のための「絵本」は19世紀前半からです。大量印刷の開発と、「子ども」の誕生が前提条件でした。18世紀以前に子どもは学校に通うことは少なかったし、6歳から働き始めることが多かったので、子どものための本を思いつかなかったそうです。

しかし、ヨーロッパでも、「貧乏人のための聖書」のような読めない大人のための絵本はすでに出版されていました。今になって考えれば、絵本の誕生には「子ども」が条件でなくともいいのは、子どもに本を与える発想がすぐに出てこなかったからです。

大人も十分に絵本を楽しめます。柳田邦男氏いわく、「絵本は人生に三度」です。それは、子どものとき、親になったとき、そして人生が難航しているときです。

「絵本ナビ」のサイトでは、このように解説しています。「大人になってから絵本を開いてみる。子どもの時とはまた違った感動を得る瞬間があります。」

「MYBEST」のサイトでは、このように解説しています。「絵本には、子どもだけでなく大人も楽しめる作品がたくさんあります。大人向けに書かれた絵本をはじめ、子どもと一緒に読んで感動できるものなど魅力的なラインナップです。とはいえ、癒し系の絵本から少し怖いストーリーまで、絵本のジャンルはさまざま。」

「クレヨンハウス 大人のための絵本処方箋」のサイトでは、このように解説しています。「絵本は年齢制限なしの、豊かで深いメディアです。子ども時代に出会った懐かしい本。え

っ？こんなテーマがあるんだ！と新鮮な驚きをつれてくる本。心が疲れた日は、あなただけの絵本の時間を。「症状」に合わせてお選びください。副作用なし、の処方箋です。」つまり、子どもにとってもそうですが、絵本は「純粋な娯楽」となるだけではありません。

たとえば、なつかしくなる絵本、うつくしさをを感じる絵本、いやされる絵本、なぐさめる絵本、共感できる絵本、考えさせる絵本、笑わせる絵本、ノンセンスの絵本など、大人でも楽しめるもの様々です。

それから講師はいくつかの絵本を見せながら、大人が楽しめるところを紹介しました。紹介した絵本の一覧は次の通りです。

William Kuralek 「A Prairie Boy's Summer」、 「A Prairie Boy's Winter」

安野光雅 「旅の絵本」

いぬい さえこ 「きみのことが だいすき」

ロバート・マンチ 「The Paper Bag Princess」、 「ラヴ・ユー・フォーエバー」

平田研也 「つみきのいえ」

谷川俊太郎 「いきる」

くすのき しげのり 「ライフ」

スーザン・バーレイ 「わすれられないおくりもの」

宮次男 「絵本・地獄」

シェル・シルヴァスタイン 「おおきな木」

ヨシタケシンスケ 「あるかしら書店」

クリストファー・ウィラード他 「こきゅうの本」

アヌック・ボワロベールとルイ・リゴー 「ナマケモノのいる森で」

池田香代子 「世界がもし 100 人の村だったら」

エドワード・ゴーリー 「うるんな客」、 「おぞましい二人」

五味太郎 「質問絵本」、 「正しい暮らし方読本」、 「野菜の教え」

BNN 編集部 「神話・ホラー・デザイン」

Yuji Shono 他 「The Illustrated Book About Coffee」

受講者に皆さんは絵本を乗り出して見ていましたので、今回の講座で絵本の魅力を新たに発見していたと思われます。

【講座の様子】

